

続々・白糠のアイヌ語地名

庶路川筋のアイヌ語地名

第11回 (最終回)

○クツチャロペツ川

「クツチャロペツ川」は、庶路ダム湖から2キロメートルほど北上したところで庶路川から左に分かれている川です。「クツ」(のど)・チャロ(口)・ペツ(川)という意味から、白糠地名研究会は「のどのように狭くなっている口から流れ出る川のことをいう」と解釈しています。

■「クツチャロ」

「クツチャロ」について、知里真志保博士は、もとの意味は「のどもと」「のどから胃袋へ入る入り口」で、「沼から水の流れ出る口」「沼の水が流れ出て川となるところ」と訳しています。

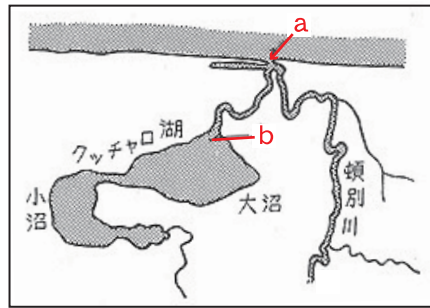
知里博士は、浜頓別町にあるクツチャロ湖の図で、aからbは、



今はクツチャロ川と呼ばれているが、もとはこの沼のクツ(のど)であったと考えられ、bは「トー・クツチャロ」で「沼ののどもと」と説明しています。庶路川筋の「クツチャロペツ」は、庶路川本流から渓谷へとつながる川の入りを表したものであると思います。

【参考・引用】『知里真志保著作集3』「地名アイヌ語小辞典」

浜頓別町クツチャロ湖の図



訳に加え、美唄市光珠内こうしゅないの「カー・ウシ・ナイ(わな・ある・沢)」をもとに「カカンナイでは、木の皮をはいで糸を作り、その糸を縄にして作ったわなで獲物を手に入れた」と説明しています。ちなみに、知里博士は『地名アイヌ語小辞典』で、「カ」には「糸」と「シカ・テン・ツルなどを捕らえる」わな」という意味があると述べています。

○カカンナイ川

「カカンナイ川」は、庶路川がコイボクシヨコツ川とコイカタシヨロ川に分かれる地点から、コイカタシヨロ川の約6キロメートル上流にある川です。

「カ(糸)・カン(つくる)・ナイ(沢)」という意味から地名研究会は「糸をつくる沢」という

